第 1 章

概　　要

注）　単位未満は四捨五入しているので、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第１　人口動態の概要

青森県の令和５年の出生、死亡、自然増減、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表１に示すとおりである。

表１　人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和5年	令和4年	対前年比	令和5年	令和4年	対前年比	令和5年	令和4年
出　　生	5,696	5,985	△ 289	4.8	5.0	△ 0.2	1°32'32"	1°27'49"
死　　亡	20,835	20,117	718	17.7	16.8	0.9	25'18"	26'08"
乳児死亡	12	9	3	2.1	1.5	0.6	732°00'00"	973°20'00"
新生児死亡	4	4	0	0.7	0.7	0.0	2196°00'00"	2190°00'00"
自然増減	△ 15,139	△ 14,132	△ 1,007	△ 12.9	△ 11.8	△ 1.1	･･･	･･･
死　　産	141	158	△ 17	24.2	25.7	△ 1.5	62°17'52"	55°26'35"
自然死産	66	66	0	11.3	10.7	0.6	133°05'27"	132°43'38"
人工死産	75	92	△ 17	12.8	15.0	△ 2.2	117°07'12"	95°13'03"
周産期死亡	14	19	△ 5	2.5	3.2	△ 0.7	627°25'43"	461°03'09"
妊娠満22週以後の死産	11	15	△ 4	1.9	2.5	△ 0.6	798°32'44"	584°00'00"
早期新生児死亡	3	4	△ 1	0.5	0.7	△ 0.2	2928°00'00"	2190°00'00"
婚　　姻	3,326	3,656	△ 330	2.8	3.1	△ 0.3	2°38'28"	2°23'46"
離　　婚	1,665	1,664	1	1.41	1.39	0.02	5°16'32"	5°15'52"

区分	令和4年	令和4年
合計特殊出生率	1.23	1.24

（全国）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和5年	令和4年	対前年比	令和5年	令和4年	対前年比	令和5年	令和4年
出　　生	727,288	770,759	△ 43,471	6.0	6.3	△ 0.3	00'43"	00'41"
死　　亡	1,576,016	1,569,050	6,966	13.0	12.9	0.1	00'20"	00'20"
乳児死亡	1,326	1,356	△ 30	1.8	1.8	0.0	6°37'28"	6°27'37"
新生児死亡	630	609	21	0.9	0.8	0.1	13°56'34"	14°23'03"
自然増減	△ 848,728	△ 798,291	△ 50,437	△ 7.0	△ 6.6	△ 0.4	･･･	･･･
死　　産	15,534	15,179	355	20.9	19.3	1.6	33'56"	34'38"
自然死産	7,152	7,391	△ 239	9.6	9.4	0.2	1°13'41"	1°11'07"
人工死産	8,382	7,788	594	11.3	9.9	1.4	1°02'53"	1°07'29"
周産期死亡	2,404	2,527	△ 123	3.3	3.3	0.0	3°39'14"	3°27'60"
妊娠満22週以後の死産	1,943	2,061	△ 118	2.7	2.7	0.0	4°31'15"	4°15'01"
早期新生児死亡	461	466	△ 5	0.6	0.6	0.0	19°03'15"	18°47'54"
婚　　姻	474,741	504,930	△ 30,189	3.9	4.1	△ 0.2	01'07"	01'02"
離　　婚	183,814	179,099	4,715	1.52	1.47	0.05	02'52"	02'56"

区分	令和5年	令和4年
合計特殊出生率	1.20	1.26

注:1) 青森県の基礎人口は令和５年が 1,177,000 人、令和４年が 1,198,000 人である。

注:2) 全国の基礎人口は令和５年が 121,193,394 人、令和４年が 122,030,523 人である。

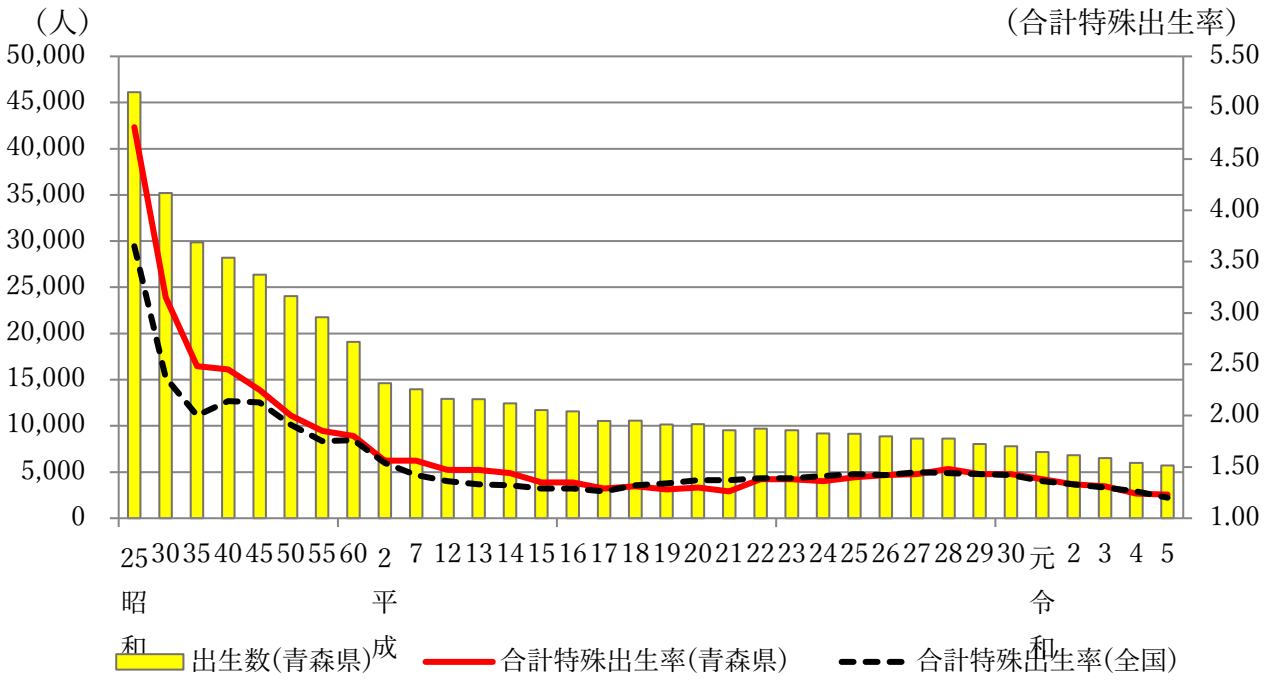
注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第２章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

１　出　生

（１）概況及び年次推移

出生数及び合計特殊出生率は、年々減少・低下傾向にあり、令和５年の出生数は 5,696 人で、前年の 5,985 人より 289 人減少し、過去最少となった。また、令和５年の合計特殊出生率は 1.23 で、前年の 1.24 を 0.01 ポイント下回り、全国の 1.20 を 0.03 ポイント上回った。（表１、図１）

図１　出生数及び合計特殊出生率の年次推移



（２）地域別出生

令和５年の市部の出生数は 4,600 人、町村部は 1,096 人であり、出生率（人口千対）は市部が 5.0 で郡部の 4.3 を 0.7 ポイント上回っている。

詳細は第２章第６表に記載されているので、参照されたい。

（３）出生順位と母の年齢

令和５年に出生した子（死産を除く）が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第１子が 43.9%、第２子が 35.6%、第３子以上が 20.4%となっており、第１子と第２子で全体の約８割を占めている。（第２章第８表参照）

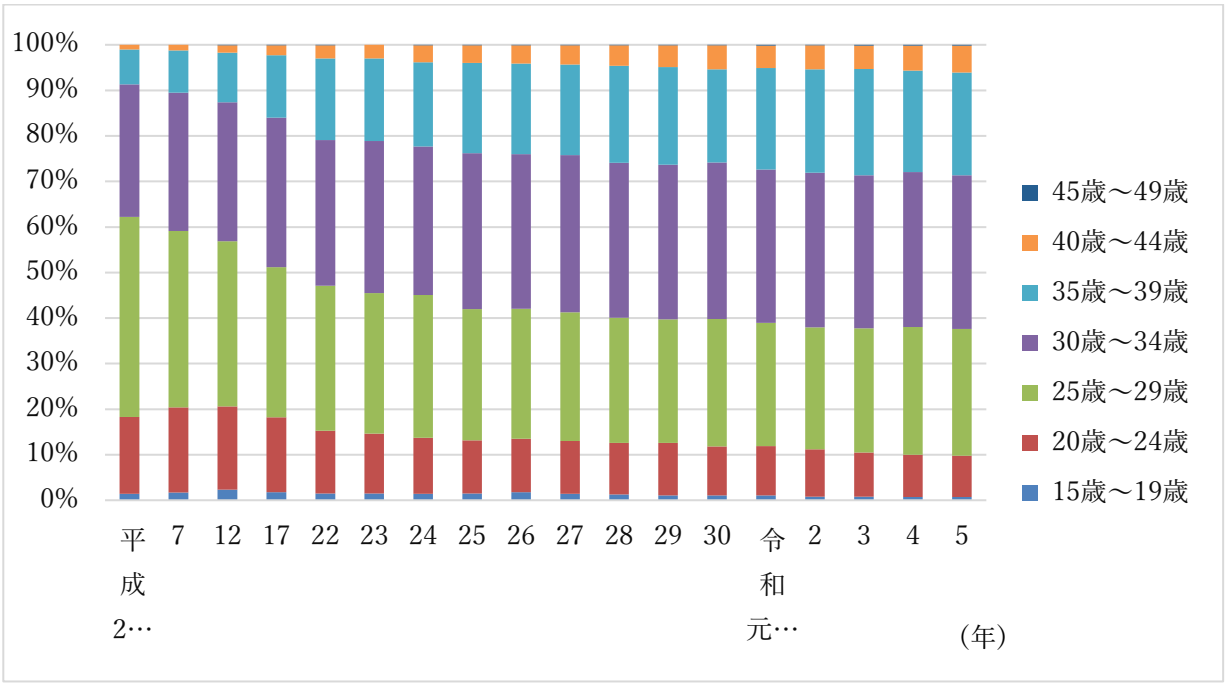
また、令和５年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30 歳から 34 歳が 33.7%で最も高く、次いで 25 歳から 29 歳が 27.8%となっている。（表２）

表２　母の年齢階級別出生の構成比

（単位：％）

母の年齢	平成2年	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元年	2	3	4	5
15歳～19歳	1.4	1.7	2.3	1.8	1.5	1.5	1.4	1.5	1.8	1.4	1.3	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.7	0.7
20歳～24歳	16.9	18.7	18.3	16.4	13.8	13.1	12.3	11.7	11.7	11.6	11.3	11.5	10.7	10.8	10.4	9.7	9.3	9.1
25歳～29歳	43.9	38.7	36.3	33.0	31.8	30.9	31.4	28.8	28.6	28.3	27.5	27.1	28.0	27.1	26.8	27.2	28.1	27.8
30歳～34歳	29.1	30.4	30.5	32.8	32.0	33.4	32.6	34.3	34.0	34.5	34.1	33.9	34.4	33.7	34.0	33.6	34.0	33.7
35歳～39歳	7.7	9.3	10.9	13.7	17.9	18.1	18.5	19.8	19.9	19.9	21.3	21.4	20.4	22.3	22.7	23.3	22.3	22.5
40歳～44歳	1.0	1.2	1.6	2.2	2.9	3.0	3.7	3.9	4.0	4.2	4.5	4.8	5.3	4.9	5.3	5.1	5.5	5.9
45歳～49歳	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2

図２　母の年齢階級別出生の構成比

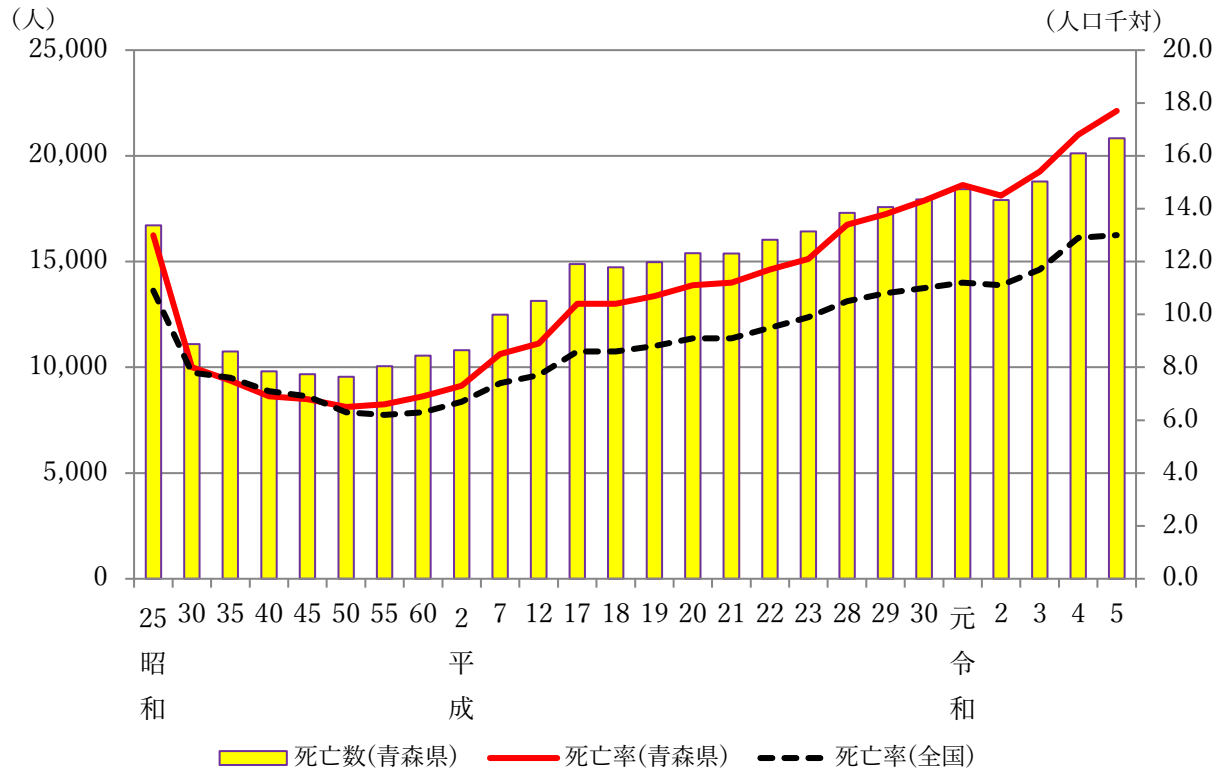


２　死　亡

（１）概況及び年次推移

死亡数及び死亡率（人口千対）は昭和 60 年代前半以降、年々増加・上昇傾向にあり、令和５年の死亡数は 20,835 人で、前年の 20,117 人より 718 人増加、死亡率は 17.7 で、前年の 16.8 を 0.9 ポイント上回り、死亡数・死亡率ともに戦後最大となった。また、死亡率は全国の 13.0 を 4.7 ポイント上回った。（表１、図３）

図３　死亡数及び死亡率の年次推移



（２）地域別死亡

令和５年の市部の死亡数は 15,438 人、町村部は 5,397 人であり、死亡率（人口千対）は市部が 16.6 で郡部の 21.0 を 4.4 ポイント下回っている。

詳細は第２章第１３表に記載されているので、参照されたい。

（３）主要死因

令和５年の死因第１位は悪性新生物で、死亡数 5,051 人、死亡率（人口 10 万対）は 421.6 となった。第２位は心疾患で、死亡数 2,955 人、死亡率 246.7、第３位は老衰で、死亡数 2,222 人、死亡率 185.5、第４位は脳血管疾患で、死亡数 1,486 人、死亡率 124.0 となった。（表３）

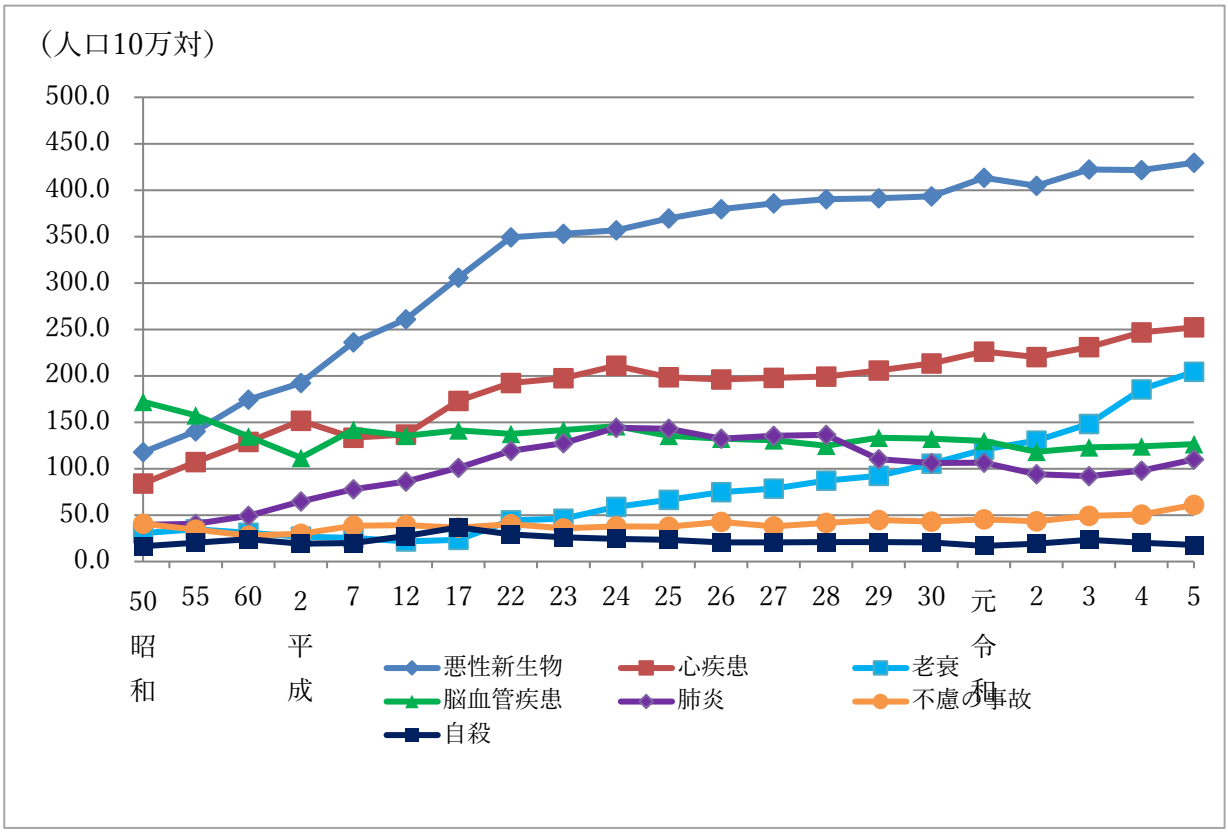
表３　死因順位別死亡数、死亡率（人口 10 万対）

（前年比較・全国比較）

死因	青森県				全国	
	令和５年		令和４年		令和５年	
	死亡数	率	死亡数	率	死亡数	率
死亡総数	20,835	1,770.2	20,117	1,679.2	1,576,016	1,300.4
悪性新生物	5,055	429.5	5,051	421.6	382,504	315.6
心疾患	2,977	252.2	2,955	246.7	231,148	190.7
老衰	2,405	204.3	2,222	185.5	189,919	156.7
脳血管疾患	1,488	126.4	1,486	124.0	104,553	86.3
肺炎	1,295	110.0	1,174	98.0	75,753	62.5
不慮の事故	719	61.1	607	50.7	44,440	36.7
誤嚥性肺炎	505	42.9	444	37.1	60,190	86.3
アルツハイマー病	512	43.5	484	40.4	25,453	21.0
血管性及び詳細不明の認知症	454	38.6	442	36.9	24,360	20.0
腎不全	480	40.8	510	42.6	30,208	24.9

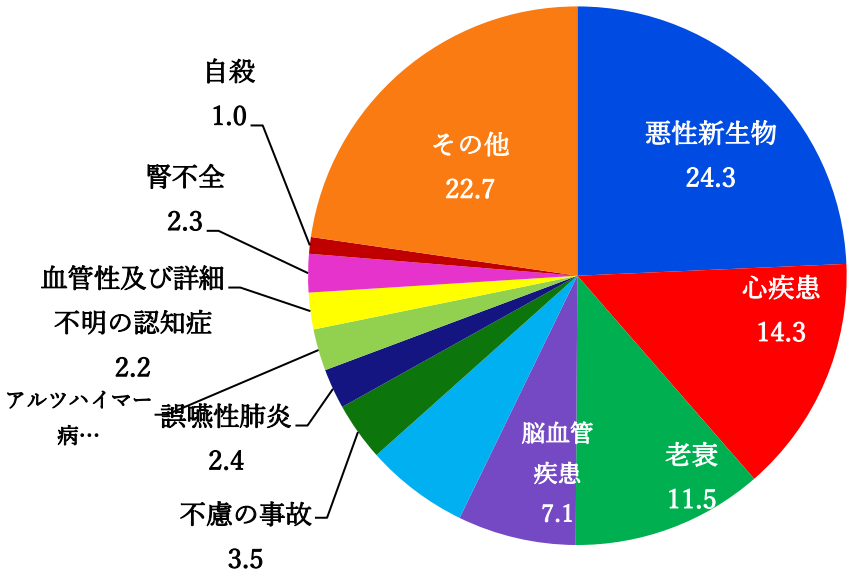
年次推移をみると、概ね平成２年以降「悪性新生物」が死因第１位、「心疾患」が第２位、第３位は「脳血管疾患」又は「肺炎」となっていたが、令和２年以降は３年連続で「老衰」が第３位となった。（図４）

図４　主要死因別死亡率の年次推移



令和５年の死因ごとの構成比をみると、悪性新生物が 25.1%、心疾患が 14.7%、老衰が 11.0%と続き、これら３つの死因で全体の 50.8%（前年 52.0%）を占めている。（図５）

図５　主な死因の構成比（%）



令和５年の年代別死因順位をみると、10 歳代から 20 歳代までは、自殺が死因第１位であり、30 歳代から 80 歳代までは、悪性新生物が死因第１位となっている。（表４）

表４　年代別死因順位、実数

年代	総数（実数）	１位	２位	３位
0～9歳	11	心疾患、先天性奇形、変形及び染色体異常、不慮の事故 2	悪性新生物、その他の新生物、筋骨格系及び結合組織の疾患、周産期に発生した病態、乳幼児突然死症候群 1	0
10～19歳	10	悪性新生物、不慮の事故、自殺 4	その他の新生物、糖尿病、脳血管疾患、肝疾患 1	0
20～29歳	35	自殺 14	不慮の事故 9	悪性新生物 3
30～39歳	66	悪性新生物、自殺 20	不慮の事故 14	心疾患 4
40～49歳	235	悪性新生物 77	心疾患 33	自殺 30
50～59歳	583	悪性新生物 231	心疾患 70	脳血管疾患 64
60～69歳	1,484	悪性新生物 735	心疾患 201	脳血管疾患 100
70～79歳	3,734	悪性新生物 1,559	心疾患 512	脳血管疾患 322
80～89歳	6,577	悪性新生物 1,749	心疾患 1,059	老衰 684
90～99歳	5,385	老衰 1,427	心疾患 1,051	悪性新生物 658
100歳～	368	老衰 207	心疾患 43	肺炎 19

３　乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡

（１）乳児死亡

令和５年の乳児死亡数は 12 人で、前年の９人より３人増加した。乳児死亡率（出生千対）は 2.1 で、前年の 1.5 を 0.6 ポイント下回り、全国の 1.8 を 0.3 ポイント上回った。（表１、図６）

死亡の原因の内訳をみると、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形及び染色体異常」が多い。（表５）

図６　乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移

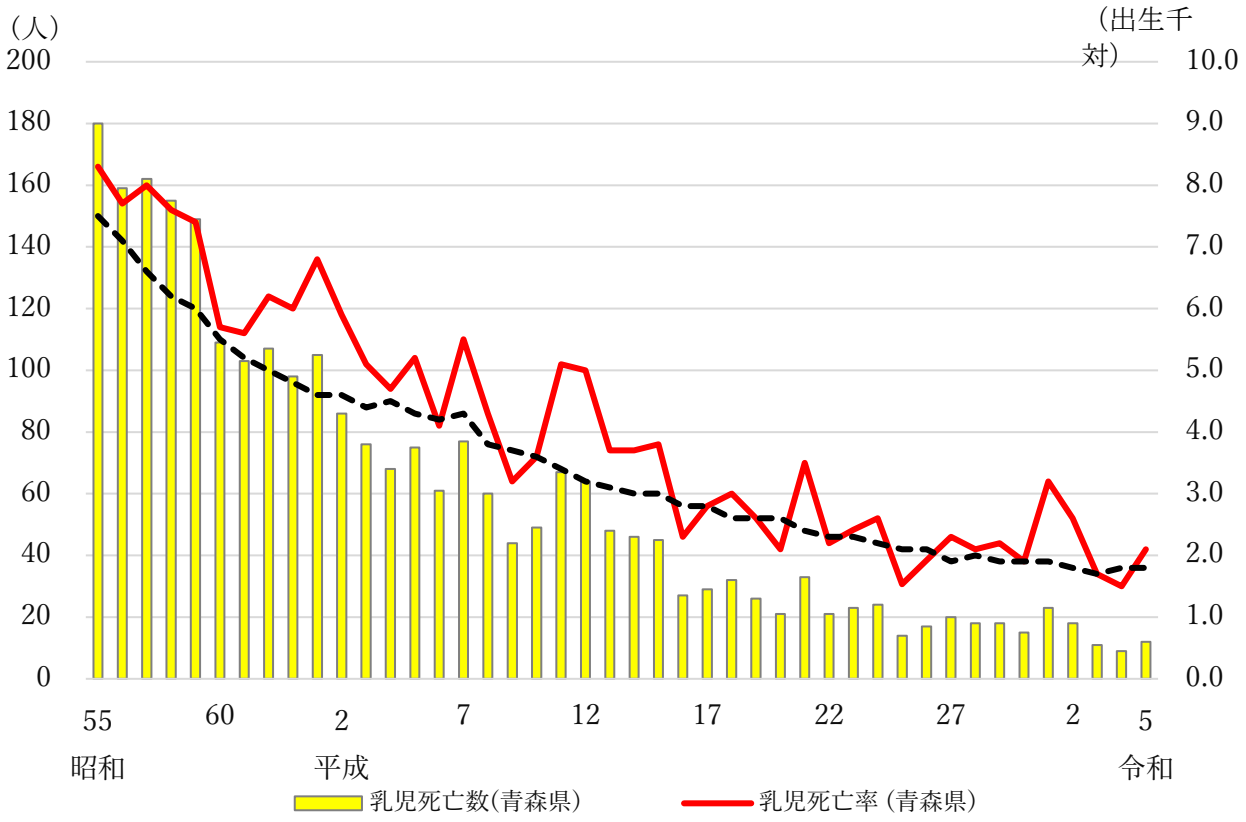


表５　乳児死亡の内訳の年次推移

死亡の内訳	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
総計	20	18	18	15	23	18	11	9	12
周産期に発生した病態	7	6	6	5	12	10	3	1	1
先天奇形、変形及び染色体異常	7	5	7	7	3	5	4	7	2
乳幼児突然死症候群	1	－	－	－	2	1	0	0	1
その他	5	7	5	3	6	2	4	1	8

（２）新生児死亡

令和５年の新生児死亡数は４人で、前年の４人と同数であった。新生児死亡率（出生千対）は0.7で、前年の0.7と同数であり、全国の0.8を0.1ポイント下回った。（表１、図７）

図７　新生児死亡数及び新生児死亡率の年次推移

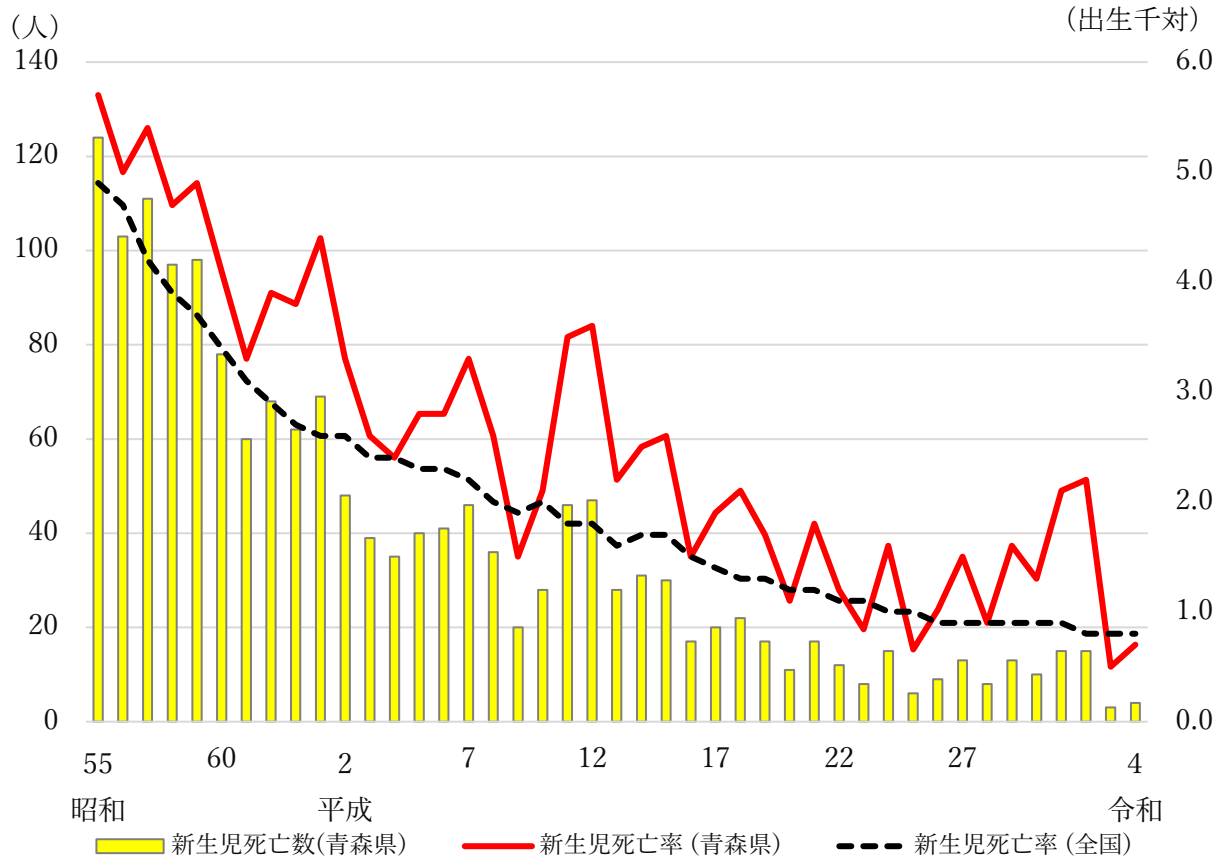


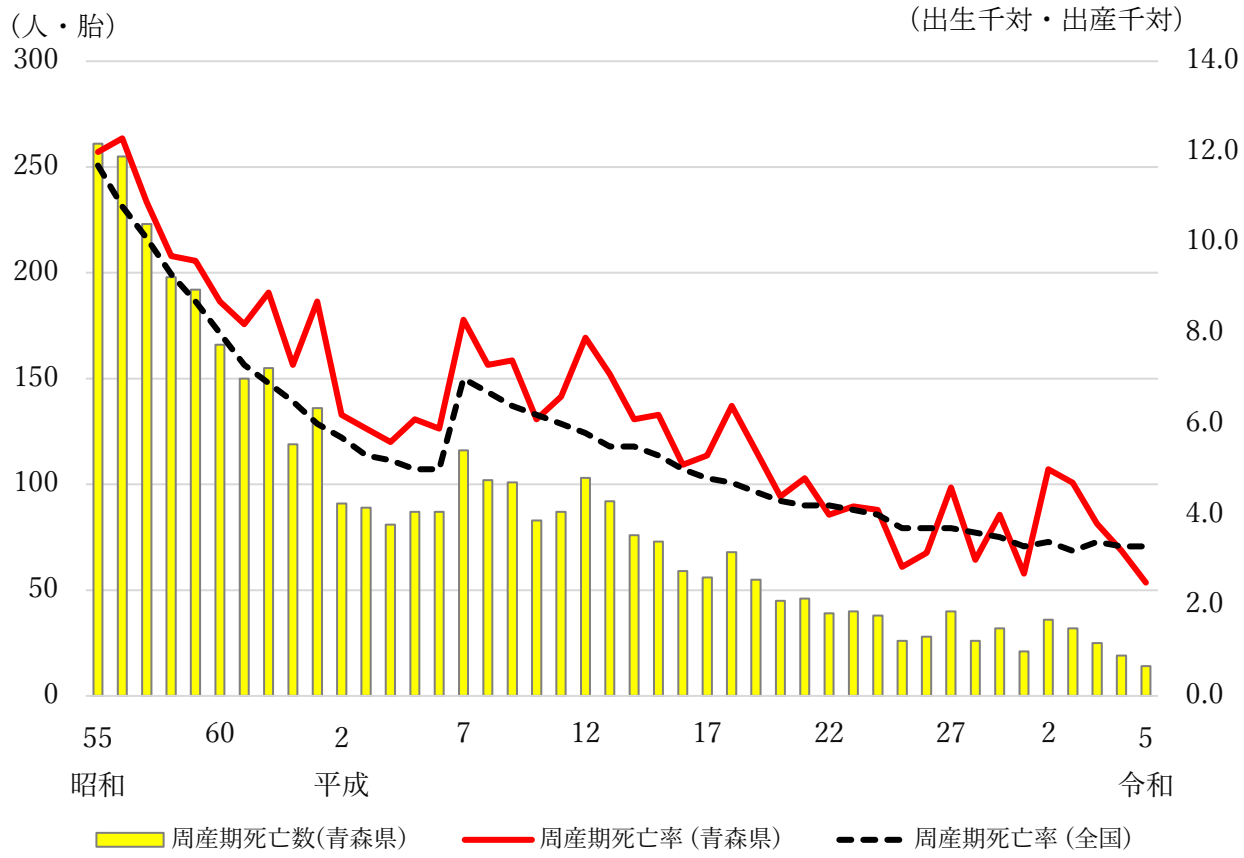
表６　新生児死亡の内訳の年次推移

死因の内訳	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
総計	13	8	13	10	15	15	3	4	4
周産期に発生した病態	7	6	6	4	12	10	1	1	1
先天奇形、変形及び染色体異常	5	2	4	5	3	5	1	3	1
乳幼児突然死症候群	－	－	－	－	－	－	－	－	1
その他	1	－	3	1	－	－	1	－	1

（３）周産期死亡

令和５年の周産期死亡数は 14 件（妊娠満 22 週以後の死産 11 胎、早期新生児死亡 3 人）で、前年の 19 件（同 15 胎、同 4 人）より 5 件（同 4 胎減、同 1 人減）減少した。周産期死亡率（出産（出生＋妊娠満 22 週以後の死産）千対）は 2.5 で、前年の 3.2 を 0.7 ポイント下回り、全国の 3.3 を 0.8 ポイント下回った。（表１、図８）

図８　周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移



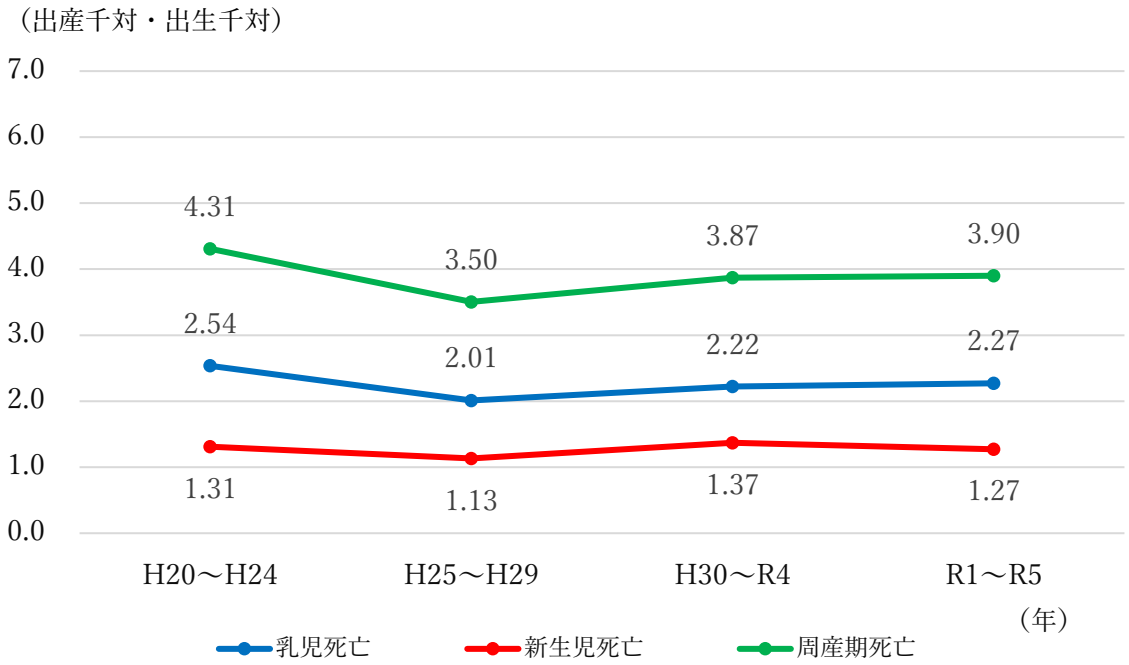
※　周産期死亡については、死亡数、死亡率の算定方法が平成６年以前と平成７年以降では異なっている。

	死亡数	死亡率
平成６年以前	妊娠満28週以後死産＋早期新生児	出生千対
平成７年以降	妊娠満22週以後死産＋早期新生児	出産千対（出生＋妊娠満22週以後死産）

（４） ５か年比較

乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡とも対象数が少ないため実数１件の増減による死亡率への影響が大きいことから、それぞれの死亡率を５年単位で比較すると、令和元年から令和５年単位では、乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡のいずれについても平成 26 年から平成 30 年単位よりも増加した。（図 9）

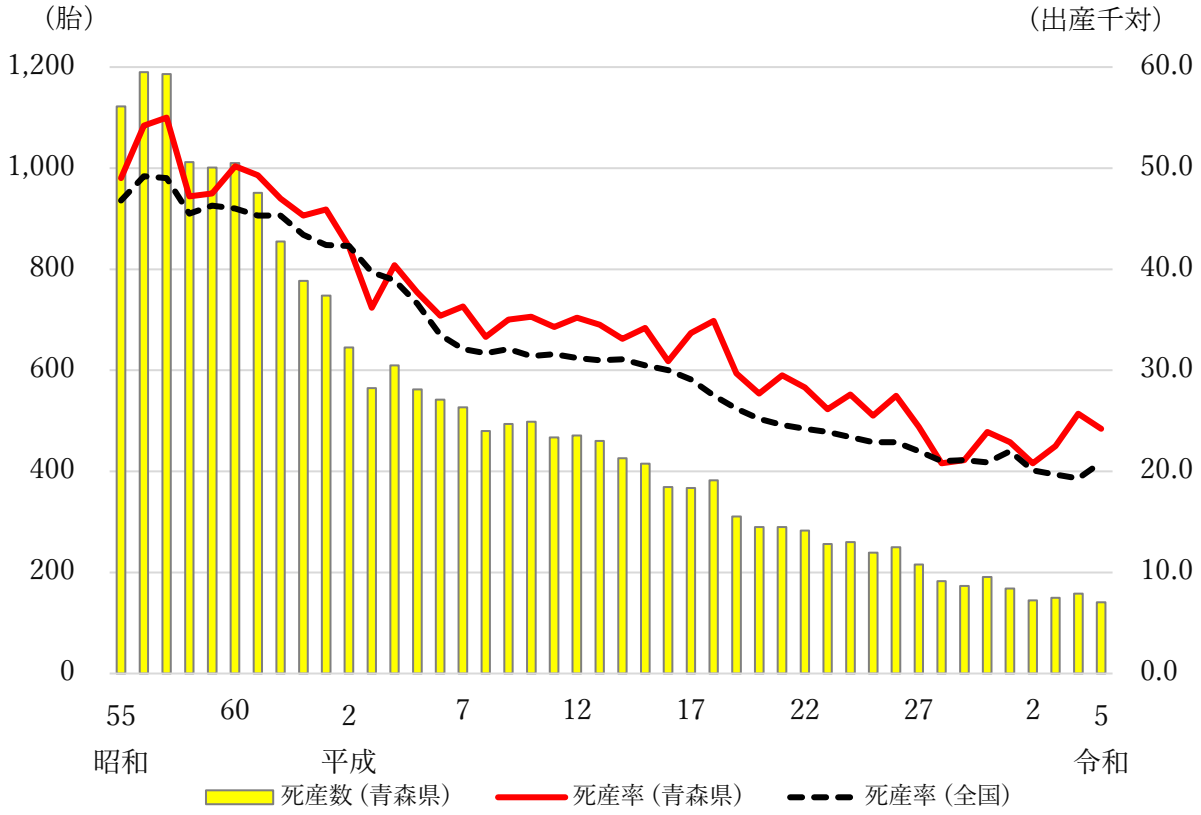
図９　乳児死亡率・新生児死亡率・周産期死亡率の５か年比較（年次推移）



４　死　産

死産数及び死産率（出産（出生＋死産）千対）は減少・低下傾向にあるが、令和５年の死産数は141 胎（自然死産 66 胎、人工死産 75 胎）で、前年の 158 胎（同 66 胎、同 92 胎）より 17 胎（同前年と同数、同 17 胎減）現象した。死産率は 24.2 で、前年の 25.7 を 1.5 ポイント下回り、全国の 20.9 を 3.3 ポイント上回った。（表１、図 10）

図 10　死産数及び死産率の年次推移

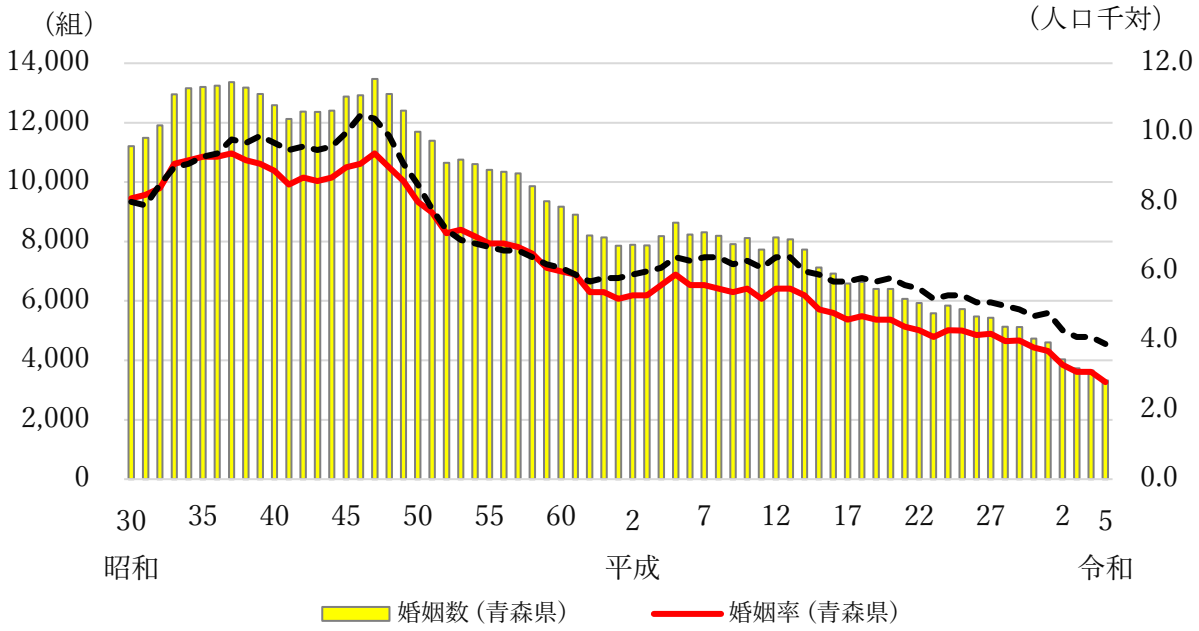


５　婚　姻

（１）概況及び年次推移

婚姻件数及び婚姻率（人口千対）は減少・低下傾向にあり、令和５年の婚姻件数は 3,326 組で、前年の 3,656 組より 330 組減少、婚姻率は 2.8 で、前年の 3.1 を 0.3 ポイント下回り過去最少となった。また、婚姻率は全国の 3.9 を 1.1 ポイント下回った。（表１、図 11）

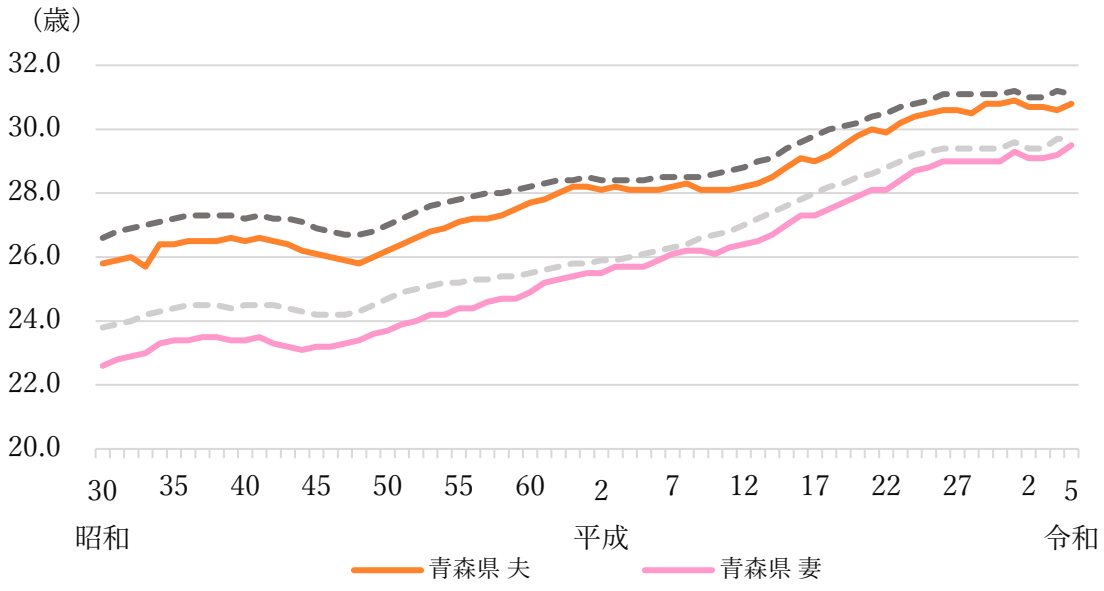
図 11　婚姻件数及び婚姻率の年次推移



（２）平均初婚年齢

平均初婚年齢は男女ともに年々上昇しており、令和４年の平均初婚年齢は、男性が 30.8 歳（全国 31.1 歳）、女性が 29.5 歳（全国 29.7 歳）で、男性は前年よりも 0.2 歳、女性は前年よりも 0.3 歳上回った。（図 12）

図 12　平均初婚年齢の年次推移

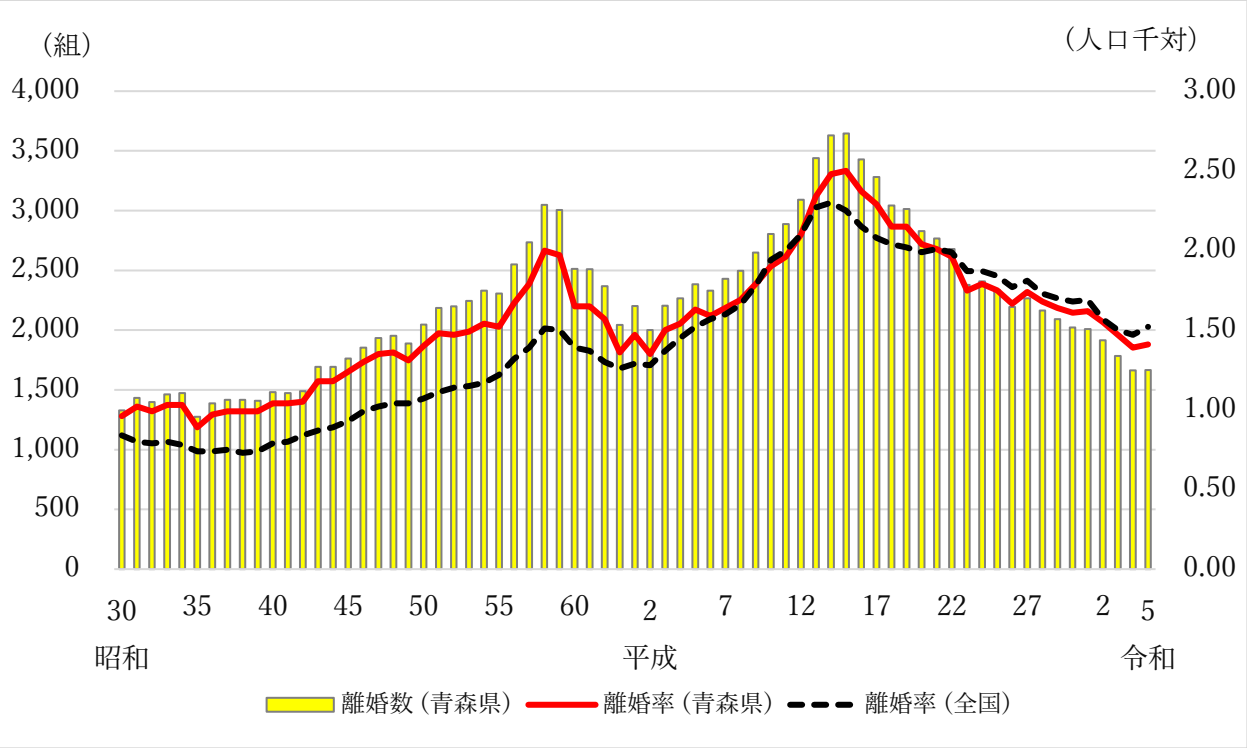


６　離　婚

（１）概況及び年次推移

離婚件数及び離婚率（人口千対）は減少・低下傾向にあり、令和５年の離婚件数は 1,665 組で、前年の 1,664 組より１組増加した。離婚率（人口千対）は 1.41 で、前年の 1.39 を 0.02 ポイント上回り、全国の 1.52 を 0.11 ポイント上回った。（表１、図 13）

図 13　離婚数及び離婚率の年次推移



（２）離婚した夫婦の同居期間

令和５年の離婚件数 1,664 組のうち、結婚５年未満で離婚した件数の構成比は 27.6%で最も多く、次いで 20 年以上の 25.3%、5～10 年の 19.2%の順となっている。（表７）

表７　離婚件数、同居期間別構成比　　（単位：%）

同居期間	27年	28年	29年	30年	R1年	2年	3年	4年	5年
0～5年	29.8	32.1	33.2	31.5	31.3	29.8	29.7	27.6	28.5
1年未満	5.8	4.9	6.2	5.6	6.1	4.6	4.5	4.9	4.6
1～2年	7.2	6.4	7.1	6.9	6.9	6.8	7.1	6.3	7.4
2～3年	7.7	6.8	7.4	6.8	6.9	7.3	6.6	6.7	5.8
3～4年	5.8	6.0	6.9	6.1	5.4	5.9	4.9	4.7	6.8
4～5年	5.6	5.0	5.6	6.1	5.9	5.3	6.7	4.9	4.0
5～10年	21.3	19.1	19.0	20.0	19.4	18.2	21.0	19.2	19.2
10～15年	14.3	13.5	12.2	13.3	13.7	12.6	11.7	13.9	12.0
15～20年	11.1	10.6	11.1	11.5	11.4	10.5	9.5	10.4	10.2
20年以上	20.2	21.3	21.3	20.4	22.1	25.3	24.8	25.3	26.2
不詳	3.2	3.4	3.2	3.3	2.1	3.6	3.2	3.6	4.0

第２　医療統計の概要

１　医療施設

（１）病院

令和５年 10 月１日現在の病院数は 89 施設で、前年の 90 施設から１施設減少した。人口 10 万対では 7.5 で、前年の 7.5 と同数であり、全国の 6.5 を 1.0 ポイント上回った。

病院数は、昭和 58 年の 124 施設をピークにその後減少傾向にある。（図１）

（２）一般診療所

令和５年 10 月１日現在の一般診療所数は 850 施設で、前年の 859 施設から９施設減少した。人口 10 万対では 71.8 で、前年の 71.3 から 0.5 ポイント増加し、全国の 84.4 を 13.1 ポイント下回った。

一般診療所のうち、有床診療所は 109 施設で、前年の 117 施設から８施設減少し、診療所全体の約 12.8%（全国 5.4%）となっている。

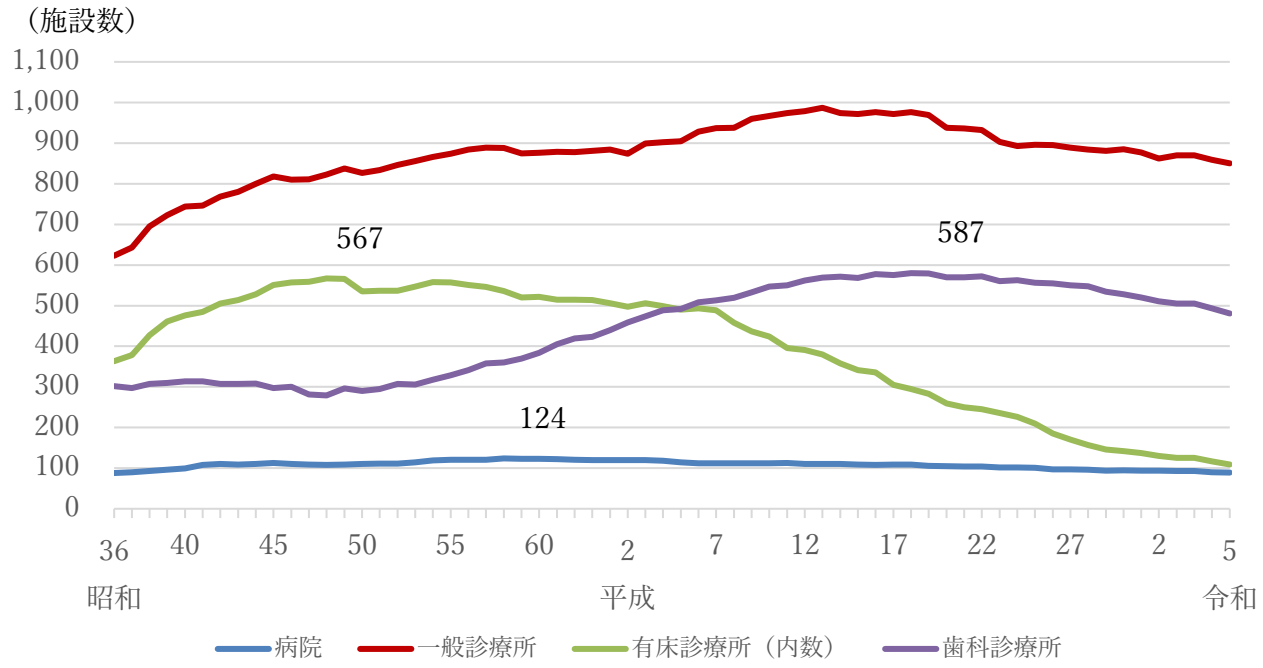
総数は平成 13 年の 987 施設、有床診療所は昭和 48 年の 567 施設をピークにその後減少傾向にある。（図１）

（３）歯科診療所

令和５年 10 月１日現在の歯科診療所数は 493 施設で、前年の 505 施設から 12 施設減少した。人口 10 万対では 40.9 で、前年の 41.4 を 0.5 ポイント下回り、全国の 54.2 を 13.3 ポイント下回った。

歯科診療所数は、平成 18 年の 580 施設をピークにその後減少傾向にある。（図１）

図１　医療施設数の年次推移



２　医師・歯科医師・薬剤師

（１）医師

令和４年 12 月 31 日現在の医師数は 2,795 人であり、前回調査の令和２年（2,773 人）から、22 人増加している。また、人口 10 万対では 232.1 であり、前回（224.0）に比べ、8.1 ポイント上回り、全国値である 274.7 を 42.6 ポイント下回った。（表１）

表１　医師数（実数、人口 10 万対）の年次推移　　（単位：人）

区分		平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年	4年
青森県	医師数	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636	2,639	2,681	2,702	2,712	2,773	2,795
	人口10万対	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	191.9	195.5	203.0	209.0	214.7	224.0	232.1
全国	医師数	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049	303,268	311,205	319,480	327,210	339,623	343,275
	人口10万対	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4	237.8	244.9	251.7	258.8	269.2	274.7

（２）歯科医師

令和４年 12 月 31 日現在の歯科医師数は 715 人であり、前回調査の令和２年（735 人）から、20 人減少している。また、人口 10 万対では 59.4 であり、前回と同値であり、全国値である 84.2 を 24.8 ポイント下回った。（表２）

表２　歯科医師数（実数、人口 10 万対）の年次推移　　（単位：人）

区分		平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年	4年
青森県	歯科医師数	717	758	757	777	789	781	787	780	762	740	735	715
	人口10万対	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9	58.3	59.0	58.9	58.6	59.4	59.4
全国	歯科医師数	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	101,576	102,551	103,972	104,533	104,908	107,443	105,267
	人口10万対	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3	80.4	81.8	82.4	83.0	85.2	84.2

（３）薬剤師

令和４年 12 月 31 日現在の薬剤師数は 2,373 人であり、前回調査の令和２年（2,345 人）から、28 人増加している。また、人口 10 万対では 197.1 であり、前回（189.4）に比べ、7.7 ポイント上回り、全国値である 259.1 を 62.0 ポイント下回った。（表３）

表３　薬剤師数（実数、人口 10 万対）の年次推移　　（単位：人）

区分		平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年	4年
青森県	薬剤師数	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012	2,052	2,111	2,210	2,306	2,345	2,373
	人口10万対	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5	152.0	159.8	170.9	182.6	189.4	197.1
全国	薬剤師数	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751	276,517	280,052	288,151	301,323	311,289	321,982	323,690
	人口10万対	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9	219.6	226.7	237.4	246.2	255.2	259.1